

成願寺

季報

145

令和7年8月18日
(2025年)

目次

「能登半島地震発災後、一年半の今」北原密蓮……………	1
「能登半島地震支援活動報告」小野大龍……………	4
中野たから幼稚園卒園遠足の報告……………	6
山内短信……………	8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711

能登半島地震発災後、一年半の今

石川県高野山真言宗海臨山千手院住職 北原密蓮

あつという間に、発災から一年半が過ぎました。

発災時に倒壊したまま、風雪にさらされて更に倒壊している家屋、公費解体中の家屋、公費解体が終わった更地、土壌改良中の土地、新築中の家屋、すでに新築した家に住んでおられる方、空き地のまま



向かって右の方が、千手院住職の北原密蓮師
左はボランティアスタッフ、看護師の吉森由香さん

秋彼岸中日法要「修証義奉誂会」のお知らせ

九月二十三日(火) 秋分の日

十一時 受付始まり

十二時 講談 日向ひまわり師

十三時 法要

*日向ひまわり師の講談をお楽しみいただいた後、参列者一同にて「修証義」を奉読いたします。



春の彼岸会の高座の様子(右上)と、ひまわり師より届いた手紙。



倒れたままの輪島市立鶴巣小学校校標



未だ手付かずな今にも倒壊しそうな塀

になつてゐる所、貸倉庫になつた所、復興のための業者の方の重機置き場等、発災前の光景とは大きく変化しました。

ボーっとしながら歩いていると、自分は今どこに
いるのだろうかと迷うことがあります。また、思い出
のある幼い頃の情景と比べて、切なくなりま

した。発災時、七尾市の自宅の賃貸アパートにいま
いた。震度六強の揺れでありとあらゆるものが倒れ、
中の物が悉く散乱し、水道は四カ月止まりました。
そして今年の二月まで、中能登町の夫の実家に避難
していました。両親の住む穴水町の実家は、大規模

半壊。両親は五月まで避難所で過ごし、その後、仮
設住宅に入居しました。

私も被災者の一人です。

被災者ではありませんが、これまで能登に育ててい
ただいたという思いもあり、発災後しばらくして、
傾聴カフェボランティアの「カフェ・デ・モンク穴水」
を立ち上げて、恩返しをしたいと思ひました。

東日本大震災の折に、宮城県栗原市の曹洞宗金田
山通大寺の金田諦應ご住職を中心に始められたのが
傾聴カフェのカフェ・デ・モンクです。被災者の方
それぞれの信仰にあわせて、寄り添っていく活動で
す。

時間の経過では解決できないこと、一人ひと
りの信仰のしんずい（真髄、心髄、神髄）に寄
り添う必要性を知りました。

能登は先祖信仰が深い地域です。

発災後、倒壊した家から最初に救出したもの
は、自分の物や必要な日常品ではなく、お位牌
や法名軸だつた方の話をたくさん聴きました。

そのような状況下において、二月下旬から準
備を始め、昨年の五月から「カフェ・デ・モン
ク穴水」を開店しました。



「カフェ・デ・モンク穴水」は、現在穴水町、輪島市、志賀町で定点定期で活動を行っています。

毎月第二木曜日は輪島市鶴巢^{こうのす}団地、最終土曜日は穴水町川島第二団地、七月から新たに志賀町中田公民館の三か所で、大人対象のカフェ・デ・モンクを開いています。

また、中高生対象の傾聴&学習支援カフェの「スタディ・デ・モンク」を不定期（長期休みや不登校が出やすい時期）に開いています。

七月十日までで、のべ五十回の活動を行いました。交通費も昼食も、全くとの手弁当で、遠方からボラ

カフェ・デ・モンク穴水

「モンク・monk」とは、一般的には「修道士」や「僧」といった何らかの宗教に属し、厳しい修行などを行ってその教えを学び伝える人のことをいう。

また、宗教者が被災者の「文句」を聴くこと、話を聴くことによって寄り添い一緒に悶苦（もんく）するという意味が込められている。

東日本大地震の際、通大寺ご住職の金田諦應老師が考案し活動された。「穴水 Csf de monk ホットと居て」の看板は金田老師が作製してくださったそう。

ボランティアスタッフがそれぞれが自分の信仰をもとに、被災者の方々に寄り添う活動をこの一年続けてきました。

全くのゼロからのスタートであり、当初は私あての「被災お見舞い」

ンティアに来ていただいています。県外は新潟県の糸魚川市から、県内でも金沢市、加賀市と約一〇〇km以上の距離を道路事情の悪い中ボランティアに来てくださっています。また、自身が被災者の輪島市の方もいます。ありがたいことです。

傾聴がメインの活動で、ボランティアスタッフは各自の特技を活かして活動しています。

自閉症スペクトラム支援士、日本グリーンケア協会特級カウンセラー、ハートセラピーコーチ、看護師、柔道整復師、元教諭の僧侶、寺族、徒弟が活動しています。

をもとに「カフェ・デ・モンク穴水」の活動を始めました。それでも、資金に不安があり、能登復興支援に関わるNPO、NGO、各種ボランティア団体さんに足を運び、支援をお願いしました。

開設主旨を理解いただき、当初は、紙コップ、紙皿、消毒用アルコール、フオーク、水、お菓子の寄付をいただきました。その後、活動に賛同してくださる全国皆さまからの支援金、義援金で「カフェ・デ・モンク穴水」の活動は成立しています。今のところ、仮設住宅入居二年分の活動費（来年の五月まで）はあります。

東北のカフェ・デ・モンクで活動していた、宮城県広最寺副住職小野大龍師とのご縁から、成願寺さまとのご縁を紡いでいただきました。

仮設住宅に入居していると、意外と甘いものやおやつを食べる機会がありません。（購入して食べようという気力がまだまだ湧いてこないようです。）かりんとう、麩菓子、おせんべい、ラムネ、と成願寺さまからの支援品が大変よろこばれました。

特に、ピンク色の麩菓子はみなさん「可愛らしいピンク色でめずらしい！」と笑顔がこぼれました。その他、うどんや健康シール等、「こんなにたくさん

いただいて」と口々にお礼を申し添えました。

ご支援まことにありがとうございます。

やっと一年半、まだまだ一年半。先の震災と比べると復旧復興が遅れていると聴きます。

今後も、細く長く背伸びせず、できることを一歩やっつけていこうと思います。

拙い報告ではありますが、読んでいただきありがとうございます。

皆さまからのご支援に感謝して。

南無大師遍照金剛

南無釈迦牟尼仏

北原密蓮拝

能登半島地震支援活動報告

宮城県広最寺 副住職 小野大龍

令和七年六月十二日、輪島市鶴巢^{つりのす}仮設住宅団地集会所にてボランティア活動を行って参りました。

成願寺様からたくさんの方の支援物資をいただき、仮設に住む皆様に届けてきました。



茶菓を手におしゃべりを楽しむ方々



成願寺からの支援品

今回の活動は、東日本大震災から行ってきた「カフェ・デ・モンク」という傾聴活動がメインとなる活動でした。傾聴活動とは、被災された方々の話を聞く事によって、被災された方々の心が少しでも軽くなること祈って行うものです。

東日本大震災の時は、福島県南相馬市にある岩屋寺様での活動においては、岩屋寺住職（当時副住職）星見泰寛老師と成願寺副住職が修行時代の同安居（修行時代の同期）というご縁があり、成願寺副住職にもお手伝いいただきました。当時、原発問題で山内には星見住職しかおらず、ご家族の皆様は宮城県の

親戚の所に避難していると聞きました。

また、岩屋寺現副住職の星見元耀師は、成願寺のお盆やお彼岸などで、後輩の育成を行っております。改めてご縁の大切さを感じるところであります。

今回の活動での印象深いお話をしますと、仮設住宅の入居期限の話になったとき、一人のおばあさんが、涙を流して話してくれました。「みんなは良いよな、土地が残っているのだから。私は家も壊れたし、土地もない」「それはどういう事ですか?」と聞いたところ、地滑り危険地域と認定され、今後住むことができないそうです。このように、同じ地域で被災されても色々な問題があるのだと考えさせられました。

今後現地でもボランティア活動を行っている北原師と連携して、少しでも長く活動を行っていけるようにと考えています。

近年日本のみならず、世界各地で自然災害が発生し、尊い命が失われるニュースを目にします。他人事と思わず、皆様におかれましても避難所の確認、防災グッズの再確認等を行っていただき、もしもの時に冷静な判断ができるような準備をしていただきたいと思います。

小野大龍合掌

中野たから幼稚園卒園遠足の報告

昨年二月二十一日、「三年間無事に園生活を過ごせたことを感謝し、お参りをする」ことを目標に令和六年度年長組の卒園遠足が行われました。行き先は横浜市鶴見区の曹洞宗大本山總持寺です。

大型バスに乗りこむ子どもたち

八時半に登園すると副園長先生より「みなさん、今日は大きなお寺に、大きなバスに乗ってお参りに行きます。卒園の報告を感謝の



副園長先生から朝のお話



紫雲臺にて龍の襖絵を間近で見学



大祖堂でお焼香



記念写真



総受付のある香積台に到着

気持ちを持っていきましょう」とお話があり、お家の方とお留守番の先生方に「行ってきます！」と元気いっぱいにご挨拶して大型バスに乗り込みました。高速道路を一路鶴見へ進み、約一時間ほどで總持寺の総受付・香積台こうしゃくたいに到着。ご挨拶の後、一室に荷物を置かせていただき、まずは諸堂拜観。案内係の雲水さん(修行僧)に誘導されて、このお寺の一番偉い和尚様、禅師様が参詣の方とお会いになるお



仏殿でお釈迦様、迦葉尊者、阿難尊者に参拝



衆寮での坐禅



作務体験・雑巾掛け



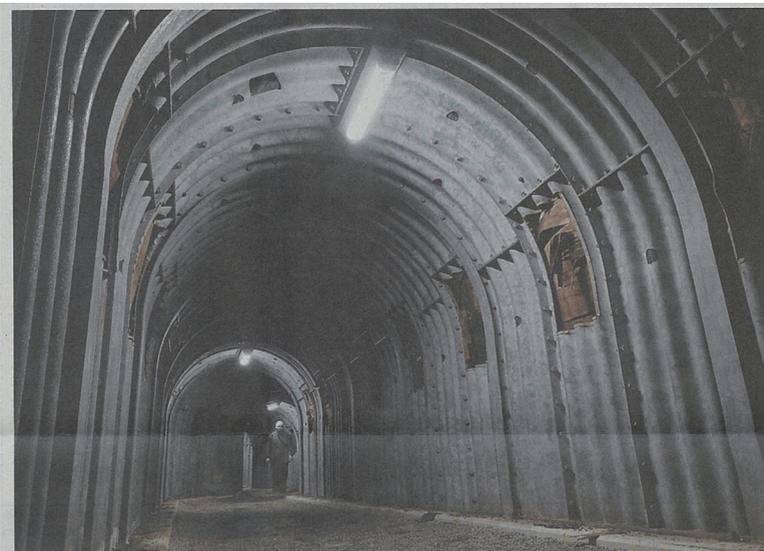
食前の「五観の偈」をお唱えする子どもたち

部屋、紫雲基^{しうんたい}で迫力ある龍の襖絵を見せていただきました。一般寺院の本堂にあたる大祖堂^{だいそどう}では、香台をずらりご用意くださっていました。いつも成願寺の本堂でしているように、左手にお数珠を持つてお焼香をさせていただきました。記念写真を撮ったあとは、普段はお堂正面外からしかお参りのできない佛殿の堂内を特別にご案内くださり、ののさま（南無釈迦牟尼佛）にご挨拶。次に案内されたところは衆寮^{しゅうりょう}と呼ばれるお堂です。そこは一般参禅者を迎える坐禅堂です。

中野たから幼稚園では年長組になると、月に一度

成願寺本堂に参拝して、坐禅の時間を過ごします。いつも園長先生に教えていただいている通りに入口では柱側の足から入り、おしゃべりなどはせず、木版の合図で気持ちを落ち着けて坐禅をいたしました。続いての作務体験^{さむかひ}では、雲水さんが毎朝雑巾掛けを行う長さ一六四メートルの百間廊下を同じように雑巾掛けです。園長先生も修行時代を思い出し、子どもたちと一緒にを行いました。

最後はお楽しみのお弁当タイム。食事の心得「五観の偈」をお唱えして「いただきますー!」。食事後、お世話になった雲水の皆さんにお礼を述べて、園への帰路へ着きました。



記憶継ぐ「旧」防空壕

東京の山の手地区が爆撃され、3千人以上が亡くなった「山の手大空襲」から25日で80年。東京都中野区にある成願寺には、戦時中に造られた長さ約40㍍の旧防空壕が今も残り、見学者が足を運んでいる。

終戦前年の1944年、僧侶や檀家の人たちが裏山を掘って造った。高さは2㍍ほどで、空襲のたびに近くの住民も避難してい

たという。

45年5月25日の深夜、464機のB29爆撃機が3千㍍以上の焼夷弾を投下。皇居から西側の広い地域が焼け野原になった。成願寺も全焼した。

同寺では防空壕を「旧」防空壕と呼んでいる。「二度と戦争がなく、過去の物であってほしい」という思いからだという。

壁面がもろいため、94年に金属で補強された。見学には事前に連絡が必要だ。

(嶋田達也)



入りで紹介されました。

刊行されました。「神田川上流を歩く②」のテーマで、当山が写真

◎「日帰りウォーキング 関東周辺②」に掲載される

ウオーキングガイドの決定版
 去る五月十九日(月)、朝日新聞社映像報道部嶋田達也記者が来山。旧防空壕の記事が、同月二十五日(金)の朝日新聞夕刊に掲載されました。